

東京方式「習熟度別指導ガイドライン」に基づいた効果的な指導の実施 ①

【指導方法・推進体制】

〔チーム・ティーチング (T. T.) 〕

対象：1～2年生

方法：すべての授業を、2名体制（担任＋1名）で指導する。

〔習熟度別指導〕

対象：3～6年生

方法：① 児童一人一人の特性を理解するとともに、習熟の程度を的確に把握する。

・レディネステスト ・各種学力調査 ・東京ベーシックドリル

② 習熟の程度に応じ、学級の枠を超え、効果的な学習集団を編成して実施する。

・学年2学級 → 3展開以上 ・学年3学級 → 4展開以上

③ 学習集団は、単元の内容に応じて、その都度編成し、年間を通して固定しない。

〔推進体制〕

校内推進組織の設置。推進計画の立案。児童及び保護者への説明、意見聴取。

1 校内の共通理解を図る（推進体制の確立）

- 校内推進組織を設置し、習熟度別指導及びT. T. 等は何のために、何を目指して、どんな効果を期待して行うのか教員同士の共通理解を図る。
- 教務主幹が推進担当となり、全教員の共通理解のもと、学力向上担当、習熟度別指導担当、T. T. 指導担当、学年主任、学級担任、講師など、一人一人の役割を確実に果たす。

2 風通しの良い「内にかかれた」雰囲気醸成する

- 教務主幹や習熟度別指導担当、T. T. 指導担当が中心となって、推進組織、指導計画、教材開発、複数の目による評価など、「内にかかれた」学校体制の確立のもと、何事にも前向きに進める。

3 個に応じた適切な評価を行う

- 評価の在り方を研究し、単元の評価規準、評価計画のもと、一単位時間の授業のなかでの評価場面を適切に設定する。
- 評価規準は、できた、できないを判断するだけのものではなく、子どもに返すもの、授業の改善に役立てるものとして、評価本来の在り方を実践的に検証する。

4 子どもたちが主体となって学習集団を選択する力を培う

- 一貫した指導計画のもと、柔軟な学習集団を設定し、指導に当たる。教師が複数の目で、子どもたちの学習状況を確実に把握する。
- 子ども自身が学習状況を正しく把握し、自分の課題に最も適した学習集団が選択できるように「自己学習能力」を高める。

東京方式「習熟度別指導ガイドライン」に基づいた効果的な指導の実施 ②

5 「わかる喜び」と「のびる喜び」も実感できるようにする

- 習熟度別指導及びT. T.等は、いわゆる教師による「落ちこぼし」の解消だけではなく「伸びこぼし」の解消もめざす。
- そのため、学習の遅れやつまづきのある児童の学習集団においては、必要に応じて、前学年までの既習事項の学び直しや反復学習などによる「立ち戻る指導」「補充的な指導」も行う。
- また、習熟が早く、さらに学習を進めていきたい児童の学習集団においては、発展的な内容の学習や課題学習などによる「発展的な指導」も行う。
- さらに、特別な配慮を要する児童へは、その特性に応じた指導内容・方法を工夫する。
 - ・ 集団学習のねらいと個別学習のねらいを明確にして指導する。
 - ・ 文章を短く区切る、視覚化、動作化する、細かな段階的指導を行う、環境整備など。
- 個に応じたきめ細かな教材の準備、個別支援表等を作成、活用するとともに、学習集団の特性に応じて、教科の系統性を踏まえた一層の習熟を図る教材と発展性のある教材を開発する。
 - ・ 学習速度の違いに応じた課題や教具
 - ・ 学習の仕方の違いに応じた課題や教具
 - ・ 興味関心の違いに応じた課題や教具等

6 保護者への説明責任を果たす

- 趣旨や指導体制、学習の進め方、指導計画などを、繰り返し何度もていねいに行う。
- 保護者会、授業参観など、あらゆる機会を通して「子どもの姿」で説明する。
- 学校関係者評価などの機会をとらえ、児童及び保護者から積極的に意見を聴取する。

7 留意事項（習熟度別指導を効果的なものとするために）

学習集団の特性に応じた課題や教材等を設定する必要がある。

- そのため、すべての学習集団において毎時間の学習到達度が同一という考え方ではなく、取り扱う内容に差異を設け、設定した学習到達度まで確実に引き上げていくことが大切である。
- 具体的には、一人一人の児童の学力を伸長する観点から、（習熟の遅い）補充コースは教科書の各単元の基本的な内容までを、（習熟の早い）発展コースは発展的な内容までを扱うことができる。
- ただし、補充コースの学習到達度を「各単元の基本的な内容のみを扱い続ける」という誤った解釈をすることのないように留意しなければならない。補充コースの場合でも、単元の内容や児童の理解の状況等によって発展的な内容を扱うこともある。
- 学習指導要領に示された目標及び内容に関する事項を全て取り扱い、教育課程実施上の配慮事項に十分な配慮が必要であることは言うまでも無い。その上で、教科書に記述された内容のすべてを教える必要はなく、児童の発達段階や学習の実態などを踏まえて、例えば例題レベルの問題等の各単元の基本的な事項のみを扱ったとしても問題はない。